

株主各位

第52回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

第52期（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）

- ① 連結計算書類の連結注記表
- ② 計算書類の個別注記表

株式会社AOI Pro.

上記事項は、法令及び当社定款第18条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.aoi-pro.com/>）に掲載することにより、株主の皆様にご提供したものとみなされる情報です。

連結注記表

I 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び連結子会社の名称

- ① 連結子会社の数 20社
- ② 連結子会社の名称 (株)メディア・ガーデン、(株)デジタル・ガーデン、(株)ワサビ、(株)エムズプランニング、(株)スクラッチ、(株)シースリーフィルム、(株)ホリーホック、(株)Pargolf & Company、(株)ビジネス・アーキテクト、(株)ティー・ケー・オー、(株)P.A.R. Sports Marketing、(株)大日、(株)STORYWRITER、PT.AOI ASIA INDONESIA、C3 BKK CO., LTD.、AOI Pro. ASIA PTE. LTD.、KS ISLAND GOLF MALAYSIA SDN BHD、AOI ASIA THAI CO., LTD.、北京葵友広告有限公司、AOI SYSTEMS VIETNAM CO., LTD.

このうち、(株)Pargolf & Company及び(株)P.A.R. Sports Marketingについては、解散及び清算を決定し、現在清算手続中であります。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

- ① 主要な非連結子会社の名称
LAND AHOY DESIGN LTD
- ② 連結の範囲から除いた理由
非連結子会社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純利益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法適用の非連結子会社の数 1社
主要な非連結子会社の名称 LAND AHOY DESIGN LTD
- (2) 持分法適用の関連会社の数 2社
主要な関連会社の名称 (株)ANSWR
ナカミノ(株)

ナカミノ(株)については、新たに株式を取得したことにより、当連結会計年度から持分法適用会社を含めております。

(3) 持分法を適用しない関連会社の名称 (関連会社)

「恋しくて」製作委員会、
2007「凶鑑に載ってない虫」製作委員会、
2004「ナイスの森」パートナーズ、
「きまぐれロボット」製作委員会

持分法を適用していない理由

利益剰余金（持分に見合う額）等が連結計算書類に及ぼす影響が軽微であるため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、北京葵友広告有限公司（12月31日）を除き、連結決算日と一致しております。なお、北京葵友広告有限公司については、連結決算日で本決算に準じた仮決算を行った計算書類を基礎として連結決算を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

(その他有価証券)

(イ) 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

(ロ) 時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

② デリバティブ

時価法

③ たな卸資産

(イ) 商品

先入先出法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(ロ) 製品

個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(ハ) 仕掛品

個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(ニ) 貯蔵品

先入先出法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

減価償却方法及び主な耐用年数は以下のとおりであります。

(イ) 賃貸事業用資産……………定額法

建物及び構築物 10年～38年

機械装置 17年

(ロ) その他……………定率法

建物及び構築物 3年～47年

工具、器具及び備品 4年～15年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

(ソフトウェア)

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法

③ リース資産

(所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産)

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

③ 返品調整引当金

連結決算日後に予想される返品による損失に備えるため、返品予測高相当額を計上しております。

④ 役員退職慰労引当金

一部の連結子会社では、役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額の100%を計上しております。

(4) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

① 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上しております。

② 重要なヘッジ会計の方法

(イ) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たす金利スワップについては特例処理によっております。

(ロ) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段……………金利スワップ

ヘッジ対象……………借入金

(ハ) ヘッジ方針

金利スワップについては将来の金利上昇リスクをヘッジするために変動金利を固定化する目的で行っております。

(ニ) ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップについては特例処理の要件を満たしているため有効性の評価を省略しております。

③ 退職給付に係る会計処理の方法

(イ) 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

(ロ) 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理しております。未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

④ のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間で均等償却しております。

⑤ 消費税等の会計処理の方法

税抜方式を採用しております。

II 会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当連結会計年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を、割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当連結会計年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当連結会計年度の期首の退職給付に係る負債が172,901千円減少し、利益剰余金が111,279千円増加しております。なお、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益への影響は軽微であります。

なお、1株当たり純資産額は8.96円増加しております。

III 連結貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 3,460,133千円
2. 保証債務
金融機関に対する借入金についての債務保証
従業員 62,734千円

IV 連結損益計算書に関する注記

1. 減損損失
当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場 所	用 途	種 類	減損損失額
東京都品川区	事業用資産	無形固定資産 その他	34,651千円
東京都目黒区	事業用資産	建物及び構築物	8,190千円

当社グループは、事業区分別に資産のグルーピングを行っております。

なお、当該資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、使用価値をゼロとみなしております。

2. 事業整理損
事業整理損は、連結子会社の(株)Pargolf & Company及び(株)P. A. R. Sports Marketingの事業譲渡、解散及び清算を決定したことにより発生した損失であります。

なお、事業整理損の内訳は、次のとおりであります。

減損損失	23,887千円
返品調整引当金繰入額	23,252千円
製品廃棄損	11,760千円
その他	7,514千円
計	66,414千円

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しており、「事業整理損」に含めて表示しております。

場 所	用 途	種 類	減損損失額
東京都品川区	事業用資産	無形固定資産 その他	22,126千円
東京都品川区	事業用資産	無形固定資産 その他	1,760千円

当社グループは、事業区分別に資産のグルーピングを行っております。

なお、当該資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、使用価値をゼロとみなしております。

V 連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：株)

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数
発行済株式 普通株式	13,334,640	—	—	13,334,640

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	192,709千円	16円00銭	平成26年3月31日	平成26年6月27日
平成26年11月11日 取締役会	普通株式	85,688千円	7円00銭	平成26年9月30日	平成26年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成27年6月25日開催の定時株主総会の議案として、配当に関する事項を次のとおり提案しております。

株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
普通株式	利益剰余金	211,233千円	17円00銭	平成27年3月31日	平成27年6月26日

3. 当連結会計年度末の新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く。）の目的となる株式の種類及び数

普通株式 433,000株

VI 金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

- (1) 当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については金融機関からの借入れによる方針です。
- (2) 営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、売上債権管理規程及び制作管理部通達に沿って期日管理及び与信管理を行っております。
- (3) 投資有価証券は、取引先企業との業務又は資本連携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。
- (4) 営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。
- (5) 借入金の使途は運転資金であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を図っております。
- (6) 未払法人税等は、1年以内の支払期日であります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成27年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。（注2）をご参照下さい。）

（単位：千円）

	連結貸借対照表計上額 （※1）	時価（※1）	差額
(1) 現金及び預金	3,240,884	3,240,884	—
(2) 受取手形及び売掛金	11,991,545	11,991,545	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	1,167,953	1,167,953	—
(4) 支払手形及び買掛金	(3,318,036)	(3,318,036)	—
(5) 短期借入金	(3,180,207)	(3,180,207)	—
(6) 未払法人税等	(332,706)	(332,706)	—
(7) 長期借入金（※2）	(3,779,503)	(3,787,919)	8,416
(8) デリバティブ取引	—	—	—

（※1）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（※2）1年内返済予定の長期借入金を含んでおります。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

上場株式の時価については取引所の公表価格によっております。

(4) 支払手形及び買掛金、(5) 短期借入金並びに(6) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(7) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(8) デリバティブ取引

① ヘッジ会計が適用されていないもの

該当事項はありません。

② ヘッジ会計が適用されているもの

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、ヘッジ会計の方法ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額は次のとおりであります。

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	うち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	967,500	622,500	(※)

(※) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注2) 非上場株式(連結貸借対照表計上額168,459千円)は、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

Ⅶ 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 943.52円 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 101.38円 |
| 3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益 | 99.28円 |

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

純資産の部の合計額	12,447,769千円
純資産の部の合計額から控除する金額	724,045千円
(うち、新株予約権)	(62,603千円)
(うち、少数株主持分)	(661,442千円)
普通株式に係る期末の純資産額	11,723,723千円
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	12,425,480株

2. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

当期純利益	1,238,967千円
普通株主に帰属しない金額	—千円
普通株式に係る当期純利益	1,238,967千円
期中平均株式数	12,221,433株
潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に用いられた当期純利益調整額の主要な内訳	—千円
普通株式増加数	257,607株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含まれなかった潜在株式の概要	—

Ⅷ 企業結合に関する注記

事業分離

1. 事業分離の概要

(1) 分離先企業の名称

(株)PARGOLF

(2) 分離した事業の内容

当社の連結子会社、(株)Pargolf & Company及び(株)P.A.R. Sports Marketingが営む以下の事業

- ・ゴルフ出版関連事業
- ・ウェブサイト「Par0n.」
- ・Pargolfのフェイスブックファンページ運営サービス
- ・スマートフォンにおけるアプリケーションサービス
- ・上記に付帯関連する一切の事業

(3) 事業分離を行った主な理由

当社は、雑誌メディアを取り巻く環境の変化を受け、当社グループ内における本件事業の位置づけ及び他事業とのシナジー等を改めて検討した結果、本件事業の事業価値を最大化するためには、当社グループ内での事業展開を継続するよりも、他の有力ゴルフメディアとの連携を図ることが必要であり、それが43年の歴史ある「週刊パーゴルフ」のブランド力をより強化し、ひいては、ゴルフメディア業界の活性化につながることにすると確信し、今回の事業譲渡に至りました。また、今後の事業継続は困難と判断し、㈱Pargolf & Company及び㈱P.A.R. Sports Marketingの解散及び清算を決定いたしました。

(4) 事業分離日

平成26年10月1日

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする事業譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

0千円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産	115千円
固定資産	2,314千円
<u>資産合計</u>	<u>2,429千円</u>
流動負債	1,388千円
固定負債	1,041千円
<u>負債合計</u>	<u>2,429千円</u>

(3) 会計処理

「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日）に基づき処理いたしました。

3. 分離した事業が含まれていた報告セグメント

メディア関連事業

4. 当連結会計年度の連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

売上高	491,474千円
営業損失	△98,882千円

Ⅹ 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

I 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法
 - (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
 - ① 子会社株式及び関連会社株式
移動平均法に基づく原価法
 - ② その他有価証券
 - (イ) 時価のあるもの
決算日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)
 - (ロ) 時価のないもの
移動平均法に基づく原価法
 - (2) デリバティブの評価基準及び評価方法
デリバティブ
時価法
 - (3) たな卸資産の評価基準及び評価方法
仕掛品
個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
2. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産（リース資産を除く）
減価償却方法及び主な耐用年数は以下のとおりであります。
 - ① 貸貸事業用資産……………定額法

建	物	15年～38年				
構	築	物	10年～15年			
機	械	及	び	装	置	17年
 - ② その他……………定率法

建	物	3年～47年							
工	具	、	器	具	及	び	備	品	4年～15年
 - (2) 無形固定資産（リース資産を除く）
(ソフトウェア)
社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法
 - (3) リース資産
(所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産)
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

(3) 返品調整引当金

決算日後に予想される返品による損失に備えるため、返品予測高相当額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により按分した額を、発生の翌事業年度から費用処理しております。

なお、当事業年度末において年金資産の額が退職給付債務を上回ったため、投資その他の資産に前払年金費用を計上しております。

(5) 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業の損失に備えるため、関係会社に対する投資額を超えて当社が負担することとなる損失見込額を計上しております。

4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(2) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たす金利スワップについては特例処理によっております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段……………金利スワップ

ヘッジ対象……………借入金

③ ヘッジ方針

金利スワップについては将来の金利上昇リスクをヘッジするために変動金利を固定化する目的で行っております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップについては特例処理の要件を満たしているため有効性の評価を省略しております。

(3) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。

(4) 消費税等の会計処理の方法

税抜方式を採用しております。

II 会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当事業年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を、割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当事業年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を繰越利益剰余金に加減しております。

この結果、当事業年度の期首の退職給付引当金が172,901千円減少し、繰越利益剰余金が111,279千円増加しております。なお、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益への影響は軽微であります。

なお、1株当たり純資産額は8.96円増加しております。

III 表示方法の変更

(貸借対照表)

出資金の表示方法の変更

出資金の表示方法は、従来、貸借対照表上、「投資その他の資産」の「その他」(前事業年度 31,456千円)に含めて表示しておりましたが、重要性が増したため、当事業年度より「出資金」(当事業年度 60,838千円)として表示しております。

IV 貸借対照表に関する注記

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 1,599,311千円 |
| 2. 保証債務 | |
| 金融機関に対する借入金についての債務保証 | |
| (株)デジタル・ガーデン | 40,000千円 |
| (株)ホリーホック | 150,000千円 |
| (株)ティー・ケー・オー | 35,000千円 |
| 北京葵友广告有限公司 | 15,207千円 |
| 従業員 | 62,734千円 |
| 計 | 302,942千円 |
| 3. 関係会社に対する金銭債権債務 (区分表示したものを除く) | |
| 短期金銭債権 | 179,973千円 |
| 短期金銭債務 | 434,053千円 |

V 損益計算書に関する注記

- | | |
|--|-------------|
| 1. 関係会社との取引 | |
| 営業取引による取引高 | |
| 売 上 高 | 197,514千円 |
| 営 業 費 用 | 1,618,313千円 |
| 営業取引以外の取引高 | 245,972千円 |
| 2. 貸倒引当金繰入額 | |
| 連結子会社である(株)ホリーホックに対する貸倒引当金の計上によるものであります。 | |
| 3. 関係会社事業損失引当金繰入額 | |
| 連結子会社である(株)ホリーホックに対する関係会社事業損失引当金の計上によるものであります。 | |

4. 減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場 所	用 途	種 類	減損損失額
東京都品川区	事業用資産	ソフトウェア	41,117千円
東京都目黒区	事業用資産	建物及び構築物	8,190千円

当社は、事業区分別に資産のグルーピングを行っております。

なお、当該資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、使用価値をゼロとみなしております。

5. 事業整理損

事業整理損は、連結子会社の㈱Pargolf & Company及び㈱P. A. R. Sports Marketingの事業譲渡、解散及び清算を決定したことにより発生した損失であります。

なお、事業整理損の内訳は、次のとおりであります。

関係会社株式評価損	286,643千円
債権放棄損	233,000千円
減損損失	10,311千円
残余財産分配額等	<u>△14,272千円</u>
計	515,682千円

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しており「事業整理損」に含めて表示しております。

場 所	用 途	種 類	減損損失額
東京都品川区	事業用資産	建物	9,934千円
東京都品川区	事業用資産	工具、器具及び備品	377千円

当社は、事業区分別に資産のグルーピングを行っております。

なお、当該資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、使用価値をゼロとみなしております。

VI 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び総数に関する注記

(単位：株)

株式の種類	当事業年度 期首株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
普通株式	1,290,292	7,868	389,000	909,160

自己株式の増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加	268株
取締役会決議に基づく自己株式の増加	7,600株

自己株式の減少数の内訳は、次のとおりであります。

新株予約権の権利行使による自己株式の処分	389,000株
----------------------	----------

VII 税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(1) 流動の部

繰延税金資産	
たな卸資産	12,235千円
未払費用	36,087千円
賞与引当金	33,728千円
繰越欠損金	49,388千円
その他	23,892千円
繰延税金資産 合計	<u>155,333千円</u>

(2) 固定の部

繰延税金資産	
投資有価証券	22,016千円
関係会社株式	64,680千円
会員権	18,939千円
貸倒引当金	18,814千円
関係会社事業損失引当金	29,712千円
新株予約権	13,590千円
減価償却超過額	20,757千円
その他	8,523千円
繰延税金資産 小計	<u>197,034千円</u>
評価性引当額	<u>△154,163千円</u>
繰延税金資産 合計	<u>42,871千円</u>
繰延税金負債	
資産除去債務（有形固定資産）	△7,039千円
前払年金費用	△32,112千円
その他有価証券評価差額金	<u>△131,306千円</u>
繰延税金負債 合計	<u>△170,458千円</u>
繰延税金負債の純額	<u>△127,586千円</u>

2. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成27年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前事業年度35.64%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年4月1日から平成28年3月31日までのものは33.10%、平成28年4月1日以降のものについては32.34%にそれぞれ変更されております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

VIII 関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

属性	名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	当社と 関連当事者 の関係	取引内容	取引金額 (注1)	科目	期末残高 (注1)
子会社	(株)メディア・ガーデン	所有 直接 100.0%	役員の兼務 設備の賃貸借	賃貸料収入 (注2)	192,000千円	—	—
子会社	(株)デジタル・ガーデン	所有 直接 50.0% 間接 30.0%	役員の兼務 資金の援助 編集等の発注	債務保証 (注4)	300,000千円	—	—
子会社	(株)ホリーホック (注7)	所有 直接 100.0%	役員の兼務 資金の援助 設備の賃貸借	資金の貸付 (注3)	120,000千円	関係会社 長期貸付金 (注5)	50,000千円
				債務保証 (注6)	200,000千円	—	—
子会社	(株)Pargolf & Company	所有 直接 100.0%	役員の兼務 資金の援助 設備の賃貸借	資金の貸付 (注8)	535,000千円	—	—
				債権放棄 (注8)	535,000千円	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。
2. 賃貸料収入については近隣の地代、実勢価格を勘案して、一般取引条件と同様に決定しております。
3. 資金の貸付について、貸付利率は市場金利を勘案して合理的に決定しております。
4. (株)デジタル・ガーデンの銀行借入れに対して当社が債務保証を行ったものであります。取引金額欄には保証極度額を記載しており、当該借入金の期末残高は40,000千円であります。なお、保証料の受取りはありません。

5. 当事業年度において、50,000千円の貸倒引当金繰入額を計上しております。
6. ㈱ホリーホックの銀行借入れに対して当社が債務保証を行ったものであります。取引金額欄には保証極度額を記載しており、当該借入金の期末残高は150,000千円であります。なお、保証料の受取りはありません。
7. ㈱ホリーホックの事業の損失に備えるため、㈱ホリーホックに対する投資額を超えて当社が負担することとなる損失見込額に対し、91,876千円の関係会社事業損失引当金を設定しております。
8. ㈱Pargolf & Companyは清算結了を予定しており、取引内容は清算に伴い資金の貸付を行った上で債権放棄を行ったものであります。なお、債権放棄により、関係会社事業損失引当金302,000千円を取り崩しており、債権放棄額との差額233,000千円については、事業整理損として計上しております。

Ⅹ 1株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額 795.51円
2. 1株当たり当期純利益 27.95円
3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益 27.37円

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

純資産の部の合計額	9,947,191千円
純資産の部の合計額から控除する金額	62,603千円
普通株式に係る期末の純資産額	9,884,588千円
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	12,425,480株

2. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

当期純利益	341,575千円
普通株主に帰属しない金額	一千円
普通株式に係る当期純利益	341,575千円
期中平均株式数	12,221,433株
潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に用いられた当期純利益調整額の主要な内訳	一千円
普通株式増加数	257,607株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含まれなかった潜在株式の概要	—

Ⅹ 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

[メモ欄]

A series of horizontal dashed lines for writing notes.

